

令和元年度 指定管理施設運営状況（中間）評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市下北自然の家	
指定管理者	団体名	一般財団法人むつ市教育振興会
	代表者	理事長 奥 川 清 次 郎
	所在地	むつ市大畑町中島108番地5
指定期間	平成29年4月1日～令和2年3月31日（3年間）	
指定管理業務の概要	1、施設の使用許可に関する事。 2、施設の利用料金の徴収に関する事。 3、食事代、クリーニング代及び教材費の徴収に関する事。 4、青少年の集団宿泊生活の指導及び助言に関する事。 5、野外活動、体育及びレクリエーションに関する事。 6、自然観察その他の自然に親しむ学習活動に関する事。 7、施設の維持、管理及び修繕に関する事。 8、施設の特性を活かした利用促進に関する事。 9、その他施設の設置目的を達成するために必要な事。	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収 入 合 計 (A)	90,730	45,936	▲44,794
うち利用料金額	8,048	4,779	▲3,269
その他収入	60	0	▲60
うち指定管理料	82,622	41,157	▲41,465
支 出 合 計 (B)	90,730	41,963	▲48,767
うち人件費	56,771	27,102	▲29,669
収支差 (A-B)	0	3,973	3,973
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	<p>収入</p> <p>9月末までの利用料合計は、前年実績6,207千円であったが当期は1,428千円少ない4,779千円であった。各種県大会や訪問団等、大規模団体の受入れがなかったため利用人数と宿泊人数の減少になった。</p> <p>又、主催事業の実施日が各地のイベントと重なって思うような集客にならなかったことも挙げられる。状況を精査し施設の活性化に向けて取り組みたい。</p>		

	<p>支出</p> <p>支出の執行額は、昨年度より205千円多い41,963千円となった。</p> <p>職員のスキルアップを図る講習会関係で、旅費交通費67千円及び負担金69千円が増加した。</p> <p>又、10月から消費税率が増加するため、必要な物品について予め購入した。教材等も補充しており活動材料費50千円が増加した。</p>
--	---

3. 施設利用の状況

単位：人

	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
利用者数	利用者数	10,000	6,346	▲3,654
	宿 泊	1,600	1,695	95
	食 事	13,000	7,878	▲5,122
	貸 館	170	113	▲57
	リネン	2,400	1,489	▲911
	教 材	2,800	2,104	▲696
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 (有・無)				

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事 業 名	利 用 者 数	収 入	支 出
オートキャンプ	0	0	19
手作り体験「そば打ち」	50	67	51
家族でBBQ	20	37	43
家族でキャンピング	14	43	46
手作り体験「そば打ち」			9
伝統体験「としな作り」			9
食のイベント			9
手作り体験「べこもち作り」			9

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準 A (優 良) : 計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果をあげることが見込まれる。

B (適 正) : 適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準を達成できることが見込まれる。

C (要改善) : 指定管理業務の一部に課題があると認められ、改善の余地がある。

評 価 項 目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	A	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	A	A
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
① 施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
② 収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	A	A
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
① 施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
② 設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価 ㊦自己評価をCとした項目についての改善策も記載すること。

<p>令和元年度は、指定管理2期目の最終年度を迎えている。これまでの経験を生かして自然体験活動の充実を図り、多くの利用者に自然と触れ合う体験活動を提供し、誠意ある対応に努めている。癒しと潤いのある社会教育施設としての役割を担うことを目標に掲げて事業運営に取り組んできた。</p> <p>又、ジオパーク拠点施設を担うため、ちぢり浜での観察会や環境整備も実施した。</p> <p>今年度は、誘客増を目指して事業の見直しを実施した。主催・自主事業の内容に工夫を凝らすなど利用者満足にも重点を置いて事業を推進しており、スポーツ等各種利用団体の誘致、ジオパーク関連事業の実施、出前講座、オートキャンプ等、積極的に実施した。</p> <p>上半期の利用状況は、利用団体数 277 団体（H30 は 274 団体）、利用人数 4,189 人（H30 は 4,926 人）利用総延べ人数 6,346 人（H30 は 7,774 人）となり、前年同時期と比較し、利用者数 737 人減、利用延べ人数は 1,428 人が減少した。前年度よりは利</p>
--

用団体が増えたものの、一団体当たりの利用者の減少により収益も大幅に下回る結果となった。特に6月と8月の宿泊数の減少が大きかった。

今年度は、春に職員が事業所訪問を行い事業等の説明と案内書の配布するなどして取り組んでいる事業の宣伝をした。ブログに利用団体の活動状況を掲載しているが、自然の家の利用促進につながっていないことから、今後の利用促進のために事業訪問時の説明方法の工夫やブログ掲載情報の見直し等を行い、様々な課題の精査や工夫を図っていかなければならないと感じている。

ジオパーク関係では、「ちぢり浜」を訪問する利用者は増えており、ジオサイト見学、海辺の自然観察、磯釣りの体験活動を取り入れ、ジオサイトの景観や自然への理解を深める機会を増やしている。

高校陸上部、県民駅伝チーム、野球部等の合宿や各種スポーツ大会による宿泊利用が前年より減っており、広報活動とともに合宿の誘致を図りたい。

自主事業は主催事業に負けないくらいの活動を実施している。おおむね利用者から好感の意見を受けている。しかし、前年からオートキャンプを実施しているが、宣伝の周知不足等でいまだ利用がない。施設の不備もあるが、できる範囲の取り組みについて来年度に向けて実施や宣伝方法の検証をすることとしている。

今年度も実施している「出前講座」は、市内大規模校での「焼杉ストラップ」「ロープワーク」を実施している。高齢等の諸事情により自然の家に来所できない団体等にも好評であり、閑散期における利用者数の確保にも期待できる。

夏場における熊やスズメバチ等の危険動物の対策として活動前、活動中も入念に行ったことにより、利用者の安全を確保し無事故で終えることができた。同様に野山の散策、黒森山登山も安全に実施できた。

上半期は、大きな災害もなく避難所開設もなかった。

日頃から地域住民と連携し、国道の清掃、ちぢり浜海岸のごみ清掃、地域の例大祭に参加するなど連携を深めている。

指定管理料の減額により員数に限りがあるため、研修班、管理班、厨房班の職員も縦割りを超えた連携をして職務を遂行しているが、利用者の安全、事故防止、事業や指導の充実を図るためには、特に研修班職員の補充が必要である。

施設設備については、経年劣化による施設の破損等もあったが、利用者には不便をかけることなく、軽微なものについては速やかに職員の修復作業で対応した。

今後も利用者の安全・安心を最優先にして、事前のコース点検、施設・設備の確認、施設の修理営繕等の取り組みを継続する。

職員研修では、食事提供の異物混入防止マニュアルの確認、アレルギー対応、防災講習、ジオパーク研修及び草刈機等の労働災害防止に繋がる講習会を計画的に実施し、職員の技術や知識の向上に努めている。又、実施後は総括することで次に生かすことにしている。

教育・訓練として社会教育主事講習に担当課等の協力を得て手続きをして受講した。社会教育施設に欠かすことのできない人材を育成することができた。社会教育、生涯学習における資質の向上には今後も計画を持って取り組みたい。又、海浜の活動時に

使用する船舶免許の取得者も増員した。

下半期に向けて、魅力ある社会教育施設として利用者ファーストで事業活動を充実させ、利用者の増加を図りたい。

7. 市の所管課総合評価 ㊤市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

前年度と比較し利用者の減となっているが、その理由をしっかりと把握されているので今後の事業展開に生かして頂けるものと考えている。

職員の資質向上については、内部での統一的な講習も含め継続的に行っていることは、支出の削減と利用者の安全に直結することであり評価に値する。

今後は、課題解決のために既存の事業の見直しや広報の工夫をお願いしたい。